

特別支援学校の学校図書館活用 ～知的障害児が本に親しむ環境づくり～

東京都 東京都立鹿本学園

基本データ

所在地	江戸川区本一色二丁目 24番11号
児童生徒数	442人
教職員数	227人
蔵書数	約6,500冊
年間貸出冊数	約11,500冊

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】バリアフリーの取組

【活動のねらい】

- 普通の学校図書館では児童・生徒にとって本を借りにくいバリアが多くあるほか、本が古いことからくる「本を借りない」という負のスパイラルに陥っている現状がある。
- 鹿本学園では発想を転換して「利用しやすい図書室」「もっと本を借りたくなる環境づくり」を目指すこととした。

取組・活動の概要

- 平成26年4月の開校と同時に、全校を対象に「利用しやすい図書室」「もっと本を借りたくなる環境づくり」の取組を開始した。
- 通常の書架で本を選ぶと背表紙しか見えず、タイトル・著者名などの最小限の情報しか得られない。
- 作者の思いが込められた本の表紙を見せることで、文字を読むことができない児童・生徒でも本を選びやすく工夫した書架を設置した。
- 車いすの児童・生徒にとっても使いやすくなった。
- 貸出返却システムについて、フリーソフトを用いることで廉価でシステムを準備することができ、貸出カードの記入など知的障害がある児童・生徒にとって難しい作業を無くした。

取組・活動の工夫や特徴

【人通りが多い場所への図書室の移転】

- 校舎の隅から最も人通りが多い1階及び1階の廊下へ

【表紙を見せた本の展示】

- 表紙を見て本を選ぶことができるように特製の書架を設置



オープン型書架と児童・生徒の美術作品展示

【バーコードで管理する図書館管理システムの導入】

- フリーソフトで組むことで廉価ででき、貸出カードの記入からも解放



バーコードで自分で手続きする児童

【新しい本の積極的な導入】

- 「古い本は児童・生徒は手に取らない」を合言葉に古い本を廃棄し、積極的に新しい本を購入

【全校で行う読書活動】

- 読書推進月間、読書マラソンの実施で読書習慣の定着



しかもと読書マラソンボード

【公共図書館との連携】

- お話会や団体貸出で学校にないリソースを導入

取組・活動の成果や今後の展望

- 児童・生徒にとって本がある環境が当たり前のものとなり、図書室で本を借りて読むことや教室に持ち帰って読むことが習慣化された。
- 本を読むことで文字を覚えたり、新たなものに興味・関心が広がったりするなど、児童・生徒にとっての社会性が広がった。
- 本の貸出状況については電子化されているので簡単に把握できる。
- 統計データから、読書上位の本に関連した本を購入するなど活用している。
- 小学部低学年のときに読書習慣が身に付いた児童が学年が進み、小学部高学年や中学部に進学している。
- 小中高校では、学年が進むに連れて読書量が減る傾向が見られるが、本校の児童・生徒の読書習慣がどのように変容していくか期待している。

